勲四等瑞宝章・厚真町名誉町民・前厚真町長

谷内信雄氏

多くの業績を残し逝く

名誉町民であり前町長のであった谷内信雄氏の厚真町葬が、十月三十日に総合福祉センターで、町内外から約五百五十人が参列し執り行われました。

「偉大なる名誉町民、谷内信雄氏の生前のご功績に対し、心から感謝と敬意を捧げる。名誉町民との惜別に涙する五千三百人の町民とともに、谷内氏の大いなる意志を胸に刻み郷土厚真の平和な発展に力を注ぐことを誓う」と葬儀委員長の藤原町長から式辞が述べられました。続いて、六人の方々からの弔事、参列者一人ひとりから遺影の掲げられた祭壇に花が捧げられ、故人のご冥福を祈りました。

谷内氏は、十月十七日、急性肺炎のため、苫小牧市内の病院でご逝去。多くの業績を残され、八十九歳で人生の幕を引かれました。

谷内氏の主な功績

谷内氏は、二十三年余勤務した北海道を退職後、地元厚真の人たちからの要請に応え、昭和四十七年六月に厚真町長選挙に初当選。以来五期二十年にわたり厚真町長としての重責を担われ、町政と地方自治の発展に貢献されました。

就任間もないころ、厚真町を含む胆振東部市町村は、苫小牧東部大規模工業基地開発に伴う好景気とオイルショックに始まる経済不況という経済的激動期にあり、新しい未来を展望し、豊かな自然と生産が調和した文化の香り高い田園都市を目指す「まちづくり計画」を策定し、活力ある厚真の建設に尽力されました。

また、景気後退により計画変更を余儀なくされた苫小牧東部大規模工業開発においては、火力発電所、石油備蓄基地などの国家的プロジェクトを積極的に誘致促進するとともに、自然を生かしたルーラルビレッジの分譲を促進し、自主財源が乏しかった本町を、一時地方交付税の不交付団体にまで押し上げ、現在でも道内屈指の財政力を誇る町として、財政基盤を確立されました。

私たちの日常生活においても、道路、橋りょう、水道施設の改修など生活基盤の整備に努め、総合福祉センター、厚南会館などの集会施設の建設を進め、町民の利便性や快適性は著しく向上いたしました。また、スポーツセンター、野球場、スケートリンクなどのスポーツ施設、小中学校の統廃合と校舎などの建設、厚真高校の道立移管の実現など教育文化の振興、さらには、高齢者の生きがいづくりと町民の健康管理の推進など保健福祉の向上にもご尽力され、「健康で明るい地域社会」の建設に貢献されました。

産業振興では、厚真町の基幹産業である農業のさらなる発展を目指して、昭和五十年に農業基本条例を制定し、農業の近代化を推進するとともに、農家所得の拡大と経営安定に尽力されました。

これまでにあげた多くの足跡だけでなく、国際交流事業、岩手県前沢町との姉妹都市締結、主要都市での厚真会の設立などの交流事業を推進し、厚真の未来を担う人たちへの視野拡大に意を尽され、「まちづくりは人づくり」を実践してこられました。

また、忘れられないものに、大いなる田舎を売り物にした、「田舎まつり」があります。今年で三十二回を迎え、胆振管内屈指のイベントに成長し、厚真町のＰＲに大きく貢献しています。

こうした数多くのご功績に対して、平成五年四月の春の叙勲において勲四等瑞宝章を拝受し、平成八年九月には厚真町名誉町民の称号が贈られました。

谷内町長初登庁
（昭和47年７月８日）

第13回田舎まつり前夜祭
（昭和60年６月15日）

東京厚真会設立総会
（昭和63年10月28日）

名誉町民の称号が贈られる
（平成８年９月５日）